

<特集「否定、形容詞と連体修飾複文」>

エジプト・アラビア語における否定、形容詞と連体修飾複文 Negation, Adjectives and Compound Sentences of Adnominal Modification in Egyptian Arabic

長渡 陽一
Youichi Nagato

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Tokyo University of Foreign Studies

要旨: 本稿の目的は、特集「否定、形容詞と連体修飾複文」(『語学研究所論集』第23号, 東京外国語大学)における33個のアンケート項目に対するエジプト・アラビア語のデータを与えることである。

Abstract: This report aims to provide the Egyptian Arabic data which answers the thirty three survey questions for the special volume of the *Journal of the Institute of Language Research* 23, which focuses on the cross linguistic study of 'negation, adjectives, and compound sentences of adnominal modification'.

キーワード: エジプト・アラビア語、否定、形容詞、連体修飾、複文

Keywords: Egyptian Arabic, negation, adjective, adnominal modification, compound sentence

1. はじめに

否定、形容詞と連体修飾複文について、エジプトのカイロ市を中心とした口語アラビア語、エジプト・アラビア語のデータを提供する。文例の表記は、母音の音声を加味した音韻表記¹である。文例作成にあたっては、カイロ市出身の20代女性、ゼイナブ・アル・アズィーズィ氏の協力を得た。

エジプト・アラビア語の文法の要点は、次のとおりである。

- ・基本語順はSVOないしVSO。これ以上の文法関係は前置詞で示す。修飾語は名詞に後置する。
- ・動詞の時制・アスペクトには過去、現在、進行・習慣、未来、完了があり、人称、性、数で活用する。
- ・名詞は、男女2つの文法性があり、可算名詞には複数形がある。
- ・名詞は定と不定がある。普通名詞は定るとき定冠詞 *l-* を付ける。定冠詞がなければ不定である。
- ・形容詞は、形態、統語的に名詞に近い。また定の名詞を修飾するとき形容詞にも定冠詞をつける。

2. 否定

エジプト・アラビア語の否定には、接周辞 *ma- ... -f* と前置語 *mif* があり、否定される語によって次のように使い分けられる。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス (CC-BY) 下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

¹ 短母音は/a a i u/がある。/a/と/a:/は区別せず *a* で示した。/i/は *i* と *e*、/u/は *u* と *o* の実現形に近いほうで示した。挿入母音の/i/と/u/は上付きの「e」「o」で示した。長母音は /a: a: i: u: e: o:/ がある。/a:/と/a:/は区別せず *a:* で示した。音節再構成により短縮した長母音は短母音で示した。咽頭化音子音の/*ħ*/、/*ǰ*/、/*s*/はそれぞれ *ħ*、*ǰ*、*s* で示した。語末の *h* はふつう発音されない。*g* (ج) [g]は、他の諸方言の/*ǧ*/に対応する。

エジプト・アラビア語の否定辞使い分け

否定形式	否定される語
接周辞 <i>ma- ... -f</i>	<ul style="list-style-type: none"> ・動詞（過去形、現在形、進行形） ・存在詞
前置語 <i>mif</i>	<ul style="list-style-type: none"> ・動詞（完了形、未来形、進行形） ・名詞、形容詞、前置詞句、副詞など

動詞完了形は能動分詞が起源であり、形容詞と同じ統語上のふるまいをする。動詞進行形は、接周辞 *ma- ... -f* で否定することが多いが、前置語 *mif* でも否定でき、意味の差はない。未来形は、前置語 *mif* で否定される。

2.1. 名詞述語文／コピュラ文の否定

名詞述語文は、現在時制ではコピュラを使わない。名詞のほか、述語が形容詞、前置詞句など、動詞以外の述語でも同じなので、まとめて非動詞述語文と呼ぶことができる。(1) は、*da* ^{これ} *keta:b-i* ^本 ^{私の} 「これは私の本だ」の述語名詞を前置語 *mif* で否定したものである。*mif* は否定コピュラではない。

(1) これは私の本ではない。

da mif keta:b-i . (ده مش كتابي)
これ NEG 本 -私の

2.2. 存在文の否定

存在文は、(2) の *fi*: 「ある」など、前置詞を起源とした存在詞に存在物の名詞を後続させて構成される。存在詞は、動詞と同じく接周辞 *ma- ... -f* で否定され、擬似動詞と呼ばれる。

(2) この部屋には椅子がない。

ma-fi: -f korsi fi l- ?o:da hena. (مفیش كرسي في الأوضة هنا)
NEG- 有る-NEG 椅子 に DEF-部屋 ここ

2.3. 全部否定

特定の名詞について「1つの～も」は、名詞に *wala* 「～さえ」や *wa:hid* 「1」などをつける。(3) ではさらに *hatta* 「まで」をつけているが、これらのいずれかがなくても全部否定となる。

(3) この部屋には一つも椅子がない。[モノの全部否定]

ma-fi: -f wala hatta korsi wa:hid fi l- ?o:da hena. (مفیش ولا حتي كرسي واحد في الأوضة هنا)
NEG- 有る-NEG さえ まで 椅子 1つ に DEF-部屋 ここ

ヒトの「1人の～も」の場合もこれと同じく、*wala* などを使って *ma-fi:-f wala ta:leb* 「1人の学生もいない」などとする。

これに対して、「何も(ない)」には、普通名詞の *ha:ga* 「物」を不定代名詞のように使って *ma-fi:-f ha:ga* 「何もない」とし、「誰も(いない)」は、(4) のように不定代名詞 *hadd* 「誰か」を使う。

(4) その部屋には誰もいない。[ヒトの全部否定]

ma-fi: -f hadd^e fi l- ?o:da-di . (مفیش حد في الأوضة دي)
NEG- 有る-NEG 誰も に DEF-部屋 -その.F

2.4. 所在文の否定

所在文は一般的には、在るものを主語とし、場所を示す前置詞句を述語とするコピュラ文（非動詞述語文）である。(5) のように、*mawgu:d* 「所在している」を使うこともできる。これはとくに人が主語の

ときにはよく使われる、文語の *wadzada* 「見出す」の受動分詞が起源の形容詞である。

(5) その本はこの部屋にない。

ek-keta:b mif mawgu:d fi l- ʔo:ða hena. (الكتاب مش موجود في الأوضة هنا)
 DEF-本 NEG 在る に DEF-部屋 ここ

2.5. 形容詞文の否定

形容詞文は、形容詞が述語になっている非動詞述語文で、これを否定するには、述語形容詞を前置語 *mif* で否定する。

(6) この犬は大きくない。

ek-kalb^e-da mif kibi:r. (الكلب ده مش كبير)
 DEF-犬 -この NEG 大きい

形容詞文の部分否定は、(7) にあるように、*ʕawi* 「とても」で修飾された述語形容詞 *kibi:r ʕawi* 「とても大きい」を前置語 *mif* で否定することでなされる。文脈から分かっているならば、*kibi:r* 「大きい」を言わずに *mif ʕawi* 「とてもではない」とすることもできる。

(7) この犬はあまり大きくない。[部分否定]

ek-kalb^e-da mif kibi:r ʔawi. (الكلب ده مش كبير قوي)
 DEF-犬 -この NEG 大きい とても

2.6. 形容詞の比較級と最上級

比較級と最上級は形態的には同じで、形容詞の3子音語根を *ʔaCCaC* 型に嵌めて得られる。比較か最上かは、文脈、あるいは統語的に判別される。たとえば(8)のように *min* 「～より」が後続していると比較であり、(9)のように名詞が後続していると最上である。

(8) この犬はあの犬より大きい。[比較級]

ek-kalb^e-da ʔakbar min ʕk-kalb^e-da. (الكلب ده أكبر من الكلب ده)
 DEF-犬 -この 大きい COMP より DEF-犬 -あの

(9) この犬がその犬たちの中で一番大きい。[最上級]

ek-kalb^e-da ʔakbar kalb wiʕt ʕk- kela:b-di . (الكلب ده أكبر كلب وسط الكلاب دي)
 DEF-犬 -この 大きい COMP 犬 の中で DEF-犬.PL -その

2.7. 自動詞文と他動詞文

自動詞文と他動詞文とで、否定方法は異ならない。次の(10)は未来形 (*ha...*) なので前置語 *mif* で否定され、(11)は過去形なので接周辞 *ma...-f* で否定されている。

(10) 今日のはあの人は来ない。[自動詞文の否定]

ennaharda f- faʕʕ^e-da mif ha-ji:gi. (النهاردة الشخص ده مش هيجي)
 今日 DEF-人 -あの NEG FUT-来る.3

(11) あの人はその本を持って行かなかった。

ef- faʕʕ^e-da ma-ʕadd^e -f ʕk- keta:b maʕa:-h . (الشخص ده مأخذش الكتاب معاه)
 DEF-人 -あの NEG-持って行った-NEG DEF-本 と共に -彼

2.8. 数量の否定

数量の全部否定は、名詞 *koll* 「全て」を主語とし、その述語を否定する。(12) の(a)は「全ての学生が」、(b)は「学生は、その全てが」という構造をしている。

(12) 全ての学生が参加しなかった／学生は全員参加しなかった。[全部否定]

(a) *koll^e t- tolla:b ma-farku: -f* . (كل الطلاب ماشاركوش)
全て DEF-学生.PL NEG- 参加した.PL-NEG

(b) *et- tolla:b koll^o-hom ma-farku: -f* . (الطلاب كلهم ماشاركوش)
DEF-学生.PL 全て -彼ら NEG- 参加した.PL-NEG

部分否定は、*koll* 「全て」を否定する。(13) の(a)では *koll^e t-tolla:b* 「全ての学生」を *mif* で否定している。(b)は、元文の「～わけではない」を訳した、「全ての学生が参加したという、そういう意味ではない」という文である。

(13) 全ての学生が参加したわけではない。[部分否定]

(a) *mif koll^e t- tolla:b 'staraku* . (مش كل الطلاب اشتركو)
NEG 全て DEF-学生PL 参加した.3PL

(b) *mif mašna keda šinn^e koll^e t- tolla:b 'staraku* . (مش معني كده إن كل الطلاب أشتركو)
NEG 意味 そう という 全て DEF-学生PL 参加した.3PL

2.9. 文の否定

文を否定するには、その文を *šinn* 「～という」でまとめる必要がある。(14) では、*ka:li* 「高い」という一語文を *šinn* でまとめている。*šinn* は直後に名詞、通常は主語が必要で、それが接尾代名詞（男性単数）*-o* 「それ」である。

(14) (私は買わなかったが) 値段が高いというわけではない。[文の否定]

da mif mašna:-h šabadan šinn-o ka:li . (ده مش معناه أبداً إنه غالي)
それ NEG 意味 -その 決して という-それ 高い

2.10. 禁止(否定命令)

禁止(否定命令)は、エジプト・アラビア語では、現在形2人称の否定と同じ形態である。つまり(15) (a)は「君は走らない」、(16) (a)は「君は大きな声を出さない」とも解釈できる。(b)の *šiwša* 「気をつける」は強い否定命令を表し、インフォーマントによると「さもないと…」が続くニュアンスがある。

(15) 走るな!

(a) *ma-tigri:-f* . (ما تجريش)
NEG- 走る.2 -NEG

(b) *šiwša tigri* . (إوعى تجري)
気をつける.IMP 走る.2

(16) 大きな声を出すな！

(a) *ma-tʃalli:-f ʃo:t-ak.* (ما تعلّيش صوتك)
 NEG- 高める.2 -NEG 声 -君の

(b) *ʔiwʃa tʃalli ʃo:t-ak.* (إوعى تعلّى صوتك)
 気をつける.IMP 高める.2 声 -君の

2.11. 推量の否定

推量の否定は、動詞の未来形 (*ha-*) を否定することで表す。未来形は、未来のほか、発話者による推量も表す。

(17) 明日は雨は降らないだろう。

jaʔara d- diɲa bokra miʃ ha-tmaʔʔar. (يا تري الدنيا بكرة مش هتمطر)
 ~なあ DEF-世界 明日 NEG FUT- 雨が降る

2.12. 目的の否定

目的の否定は、目的を示す節を否定文にすることで得られる。(18) は、「あの人が聞かないために」としている。動作の目的を表すには接続詞 *ʃafa:n* 「～ために」を使う。これは日本語の「～ために」と同じように、名詞を従えることも、節を従えることもできる。

(18) あの人の聞こえないように、小さな声で話してくれ。[目的節の否定]

momken titkalləm bi ʃo:t wa:ʔi ʃafa:n ʕf- ʃaʃʃe-da ma-ʃmaʃ-f .
 可能性がある 話す.2 で 声 低い ために DEF-人 -あの NEG- 聞く.3 -NEG
 (ممکن تتكلم بصوت واطي عشان الشخص ده ما يسمعش)

2.13. 否定のスコープ

否定のスコープを、(19) の元文の「言ったのではない」のように「言ったこと」を否定することはできず、(a)のように「言わなかった」とするか、(b)のように「～ためではない」とする必要がある。

(a)は、「怒らせるためにそう言わなかった」という解釈も可能だが、ふつうの状況では元文の日本語の意味に解釈される。(b)は *bass* 「けれども」を挟み、2文で構成されている。*bass* をなくして、1文にすると、ちょうど日本語の「怒らせるためでなくそう言った」となり、元文のニュアンスは伝わりにくい。

(19) 私はあなたを怒らせようと思ってそう言ったんじゃない。[否定のスコープの調節]

(a) *ʔana ma-ʔoltʔe -f keda ʃafa:n ʔazaʃʃel-ak.* (أنا ما قلتك كده عشان أز علك)
 私は NEG- 言った.1-NEG そう ために 怒らせる.1 -君を

(b) *ʔana ʔoltʔe keda bassʔe miʃ ʃafa:n ʔazaʃʃel-ak.* (أنا قلتك كده بس مش عشان أز علك)
 私は 言った.1 そう けれども NEG ために 怒らせる.1 -君を

3. 連体修飾節

アラビア語では、名詞を修飾する語句は、名詞に後置する。このとき、修飾語句が名詞でなく、形容詞や節であれば、それを先行名詞の定不定に合わせる必要がある。不定は無標示なので、単に後置するのみであるが、定であれば、形容詞なら定冠詞 *l-* を冠し、節なら節定冠詞 *li* を節の頭に冠する。

以下、文例中の修飾節を [] で囲んだ。

3.1. 内の関係

修飾節の中で、先行名詞が主語でないとき、先行名詞が修飾節の中で代名詞として再掲され、節内での役割が示される。(20) では *stare:t* 「買った」の目的語 *-o* 「それを」、(22) では *fi:-h* 「そこで」の *-h* 「それ」によって場所が示され、(23) では *rigl-o* 「その足」の *-o* 「その」として現れている。(21) は、*elli* 以下の節が名詞化されて主語となり、「誰だ、その本を持ってきた者は」という構造になっている。

(20) [私が昨日買った]本はどこ? [目的語]

fe:n **k- keta:b* [*elli stare:t-o mba:reh*]. (فين الكتاب اللي اشتريته امبارح)
 どこ DEF-本 DEF 買った.1 -それを 昨日

(21) [その本を持って来た]人は誰? [主語]

mi:n [*elli ga:b *k- keta:b-da*]. (مين اللي جاب الكتاب ده)
 誰 DEF 持ってきた.3 DEF-本 -その

(22) この部屋が[私たちの仕事をしている]部屋です。[場所]

el-ʔo:da-di hejja l- ʔo:da [*lli ʔehna bi- niʔavak fi:-ha*].
 DEF-部屋 -この.F COP.F DEF-部屋 DEF 私たち PROG-働く.1PL で -それ
 (الأوضة دي هي الأوضة اللي إحنا بنشتغل فيها)

(23) [足が一本折れた]あの椅子はもう捨ててしまった。[所有者]

*ʔala:ʂ rame:t *k- korsi* [*lli ka:net rigl-o maksu:ra*].
 もう 捨てた.1 DEF-椅子 DEF COP.PAST.3F 足 -そのの 壊れている.F
 (خلاص رميت الكرسي اللي كانت رجله مكسورة)

3.2. 外の関係

外の関係のとき、すなわち修飾節の中において先行名詞に役割がないときは、節内に、内の関係のときのような、先行名詞の役割を表す代名詞は現れない。たとえば(24) (a)では、先行名詞 *ʂo:t* 「音」が、修飾節 *hadd^e jixabbit ʂala l-ba:b* 「誰かがドアを叩く」の中に役割を持たないため、再掲されていない。

また(24) (b)のように、動名詞 *taxbi:t* 「ノックすること」を使って、「誰かのノックの音」という名詞句でも同じ内容を表すことができる。動名詞は、主語がその直後に置かれ、それ以降に前置詞句などが置かれる。

(24) [(だれかが)ドアを叩いている]音が聞こえる。

(a) *sa:meʂ ʂo:t^e* [*hadd^e jixabbit ʂala l-ba:b*]. (سامع صوت حد يخبط على الباب)
 聞こえる 音 誰かが ノックする.3 の上 DEF-ドア

(b) *sa:meʂ ʂo:t taxbi:t hadd^e ʂala l-ba:b*. (سامع صوت تخبيط حد على الباب)
 聞こえる 音 ノックの 誰かの の上 DEF-ドア

「～という噂」は、(25) (a)のように、先行名詞 *ʔifa:ʂa* 「噂」に「～という」以下の節が修飾する形で表される。節の中の *be-tʔu:l* 「言っている」の主語は先行名詞 *ʔifa:ʂa* 「噂」であり、「(噂が) 言っている」となっている。また(25) (b)のように、*ʔinn* 以下の補文節を直接、*ʔifa:ʂa* 「噂」につけることもできる。

(25) [あの人が結婚したという噂は本当？]

(a) *el-ʔifa:ʕa [ʔli be- tʔu:l ʔinn^e f- faʕs^e-da tgawwez] ʕahi:ha?*
DEF-うわさ DEF PROG-言う.3F ~と DEF-人 -あの 結婚した.3 本当.F
(الإشاعة اللي بتقول إن الشخص ده اتجوز صحيحة؟)

(b) *el-ʔifa:ʕa [ʔinn^e f- faʕs^e-da tgawwez] ʕahi:ha?*
DEF-うわさ ~という DEF-人 -あの 結婚した.3 本当.F
(الإشاعة إن الشخص ده اتجوز صحيحة؟)

3.3. 時間節、場所節

時間節は、「時」などを先行名詞とした連体修飾節にはせず、(26) のように接続詞 *lamma* 「～のとき」を用いる。

(26) 私は、[その人が来た]時にご飯を食べていた。[時間節]

ʔana kunt^e b- a:kol lamma [f- faʕs^e-da geh]. (أنا كنت باكل لما الشخص ده جه)
私は COP.PAST.1 CONT-食べる.1 のとき DEF-人 -この 来た.3

場所節は、(27) のように名詞 *maka:n* 「場所」を先行名詞とした修飾節で表す。このとき修飾節の中で、*maka:n* の役割が代名詞-*h* 「それ」によって示される。

(27) 私は、[その人が待っている]所に行った。[場所節]

roht^e ʔ-maka:n [ʔli f- faʕs^e-da mistanni fi:-h]. (رحت المكان اللي الشخص ده مستني فيه)
行った.1 DEF-場所 DEF DEF-人 -その 待っている で-それ

3.4. 補文節

補文節の1つで、*w-*「そして」と代名詞主語で始まる文を続けて、「～しながら」など同時性を表す形式がある。(28) (29) それぞれの(a)は、この同時性の *w-*を使った補文節の例である。*w-*節内の時制は、(28) (a)のように主節に合わせることもあるが、(29) (a)のように、主節の時点からみた時制にするのがふつうである。同時性の *w-*による補文節は直前の名詞にかかるとは限らず、たとえば *w-ana* 「そして私が」とすれば「私が～していたときに見た」のような節も作れる。

また、(28) (29) の(b)は、主節の目的語をそのまま主語として動詞を続ける構文である。(a)と(b)はだいたい同じ意味として使われる。

(28) 私は、[その人が走っていった]のを見た。[視覚]

(a) *ʔana fuft^e f- faʕs^e-da [w-howwa ka:n be- jigri].* (أنا شفت الشخص ده وهو كان بيجري)
私は 見た.1 DEF-人 -その そして-彼が COP.PAST.3 CONT-走る.3

(b) *ʔana fuft^e f- faʕs^e-da [ka:n be- jigri].* (أنا شفت الشخص ده كان بيجري)
私は 見た.1 DEF-人 -その COP.PAST.3 CONT-走る.3

(29) 昨日の夜、私は彼らがしゃべっているのを聞いた。[聴覚]

(a) *ʔana smeʕt^e-hom ʔmba:reh bille:l^e [w-homma be- jitkallemu].*
私は 聞いた.1 -彼ら 昨日 夜に そして-彼らが CONT-話す.3PL
(أنا سمعتهم امبارح بالليل و هما بيتكلمو)

(b) *ʔana smeʕt^e-hom [be- jitkallemu] mba:reh bille:l.* (أنا سمعتهم امبارح بالليل)
私は 聞いた.1 -彼ら CONT-話す.3PL 昨日 夜に

(30) では、*ʕa:ref* 「知っている」の目的語が *ʕ-f-ʕaxs* 「その人」ではないので(28) (29) の(b)のような形式はできず、*ʕinn* 「～と」を使った「その人が来た」という補文節にする。

(30) 私は、[その人が昨日ここに来たことを]知っている。 [知識]

ʕana ʕa:ref [ʕinn ʕ-f-ʕaxs-da geh hena mba:reh]. (أنا عارف إن الشخص ده جه هنا امبارح)
 私は 知っている ～と DEF-人 -その 来た.3 ここ 昨日

3.5. 直接話法・間接話法

アラビア語では、(31) (b)のような直接話法と、(31) (a)のような、*ʕinn* 「～と」を使った間接話法がある。時制の一致現象はない。

(31) 昨日、彼は[彼が今日ここに来たと言った]。

(a) *emba:reh howwa ʕa:l [ʕinn-o geh hena fi l- jo:m-da]*. (إمبارح هو قال إنه جيه هنا في اليوم ده)
 昨日 彼が 言った.3 ～と -彼 来た.3 ここ に DEF-日 -この

昨日、彼は、「私は今日ここに来た」と言った。

(b) *emba:reh howwa ʕa:l “ʕana ge:t hna nnaharda”*. (إمبارح هو قال “أنا جيت هنا النهارده”)
 昨日 彼が 言った.3 私は 来た.1 ここ 今日

3.6. 内在節

アラビア語では内在節はつくれず、主節の目的語を先行名詞とした修飾節で表す。(32) は「皿の上にあったリンゴ」、(33) は「家に入ってきたネコ」となっている。

(32) 私は、リンゴが[(あの)皿の上にあった]のを食べた。

ʕakalt ʕ- tuffa:ha [lli ka:net fi ʕ- ʕabaʕ]. (أكلت التفاحة اللي كانت في الطبق)
 食べた.1 DEF-リンゴ DEF COP.PAST.3F に DEF-皿

(33) 私は、ネコが[家に入ってきた]のを捕まえた。

misikt ʕ- ʕotta [lli dayalet ʕ- be:t]. (مسكت القطه اللي دخلت البيت)
 捕まえた.1 DEF-ねこ DEF 入った.3F DEF-家

参考文献

Badawi, El-Said and Martin Hinds. 1986. *A Dictionary of Egyptian Arabic*, Librarie du Liban: Beirut.

本研究は、JSPS 科研費 JP16K02877 の助成を受けています。

執筆者連絡先: nagatoyouichi@gmail.com

原稿受理: 2019年5月8日